


第9期

2025年度

多文化共生 コーディネーター研修 報告書

A circular illustration featuring twelve stylized human figures of various ethnicities and ages, arranged in a circle and connected by a dotted line. The figures are depicted in various poses, some holding objects like a book or a phone. The background is a light blue circle with a white border, set against a larger background of colorful abstract shapes in yellow, orange, green, and pink.

東京都内には多くの外国人住
民が暮らしています。今後さらに増えるこ
とが予想される中、国籍や民族の異なる人々が
地域社会の構成員として、共に生きていく多文化共
生社会を実現することが重要になっています。

公益財団法人東京都つながり創生財団では、2016年
に策定された東京都の「東京都多文化共生推進指針」
(2025年6月改定)に基づき、2017年度から地域におけ
る外国人の多様なニーズにきめ細かく対応し、多文化共
生社会の実現に資する専門人材である「多文化共生
コーディネーター※」育成のための研修を実施して
います。第9期目を迎えた今年度の研修に
ついて、ご報告いたします。

※本研修における「多文化共生コーディネーター」とは、外国人住民に関わる基本的な法制度と教育・医療・防災等、多文化共生の諸課題に関する知識を有し、そうした課題の解決に向けて、関係部署・団体間の連携や協働を進め、企画立案し、取り組む人を指します。

第9期 2025年度 多文化共生コーディネーター研修



日 時	6月12日(木)、6月19日(木)、6月26日(木)、 6月30日(日)、7月7日(日) 9:00 ~ 17:00 ※6月26日(木)のフィールドワークは、コースにより、午前・ 午後いずれか2時間程度実施
会 場	新宿NSビル会議室 3-J (東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル3階)
対 象	都内区市町村及び国際交流協会、社会福祉協議会の 職員、多文化共生に関わる都内市民団体のスタッフ
内 容	・多文化共生に係る概論及び各分野の基礎・基本に関 する講義(グループワーク含む) ・振り返り(講義内容の整理及び意見交換) ・フィールドワーク(関係機関や団体を訪問) ・演習(課題解決に向けた今後3か年の活動プランの発表)
受 講 者	31名 (区市町村、国際交流協会、社会福祉協議会、市民団体、その他)
主 催	公益財団法人東京都つながり創生財団
共 催	東京都

全体監修

明治大学教授 山脇 啓造 氏



2025年7月の参議院選挙において、日本の国
政選挙史上、初めて外国人政策が主要な争点の
一つに浮上しました。その背景にはコロナ禍後の外国人労働者
や外国人観光客の急増に対する市民の不安や不満があるかもし
れません。一方、東京都は2025年6月に多文化共生推進指針を
改定し、「教育・医療・福祉・労働・防災など、多岐にわたる分野
を包括的にコーディネートし多文化共生社会づくりの中核とな
る人材を育成する」ことを掲げました。これまで、多文化共生
コーディネーターの主な役割は外国人住民支援でしたが、今回
の選挙結果を踏まえると、外国人住民を受け入れる地域社会に
向けた多文化共生の意識づくりの役割がより重要になっていく
でしょう。この研修は2017年度以来、毎年改善を重ね、他の
道府県が参考にするモデル的な事業へと育っています。今こそ、
「多文化共生社会づくりの中核となる人材」育成に東京都が力を
注ぎ、他の自治体もそれに続くことを期待します。

本研修ファシリテーターからのメッセージ

一般財団法人自治体国際化協会認定
多文化共生マネージャー 長倉 美紀 氏

この研修は、生活者としての外国人を取り
巻く現状を体系的に学ぶことができ、半日の
フィールドワークでは、都内の多文化共生を
実践している現場を訪問できる充実した構成
です。加えて3か年計画づくりと発表等のアウ
トプットの場があり、多文化共生のまちづく
りを深める機会になります。私は本研修のお
手伝いをはじめて9年目になりますが、毎年主催の皆様と内容を細か
く見直し、タイムリーな学びになるよう心掛けています。また、つな
がり作りを大切にしており、参加者同士の交流の場をたくさん用意し
ています。日頃話す機会のない様々な地域・立場の仲間と語り合うこ
とで業務や活動に対する考えの幅が広がります。私は特に、初めて多
文化共生施策を担当する自治体職員の方々におすすめしたいです。ぜ
ひ受講いただき、一緒に東京の多文化共生を創っていきましょう！



公益財団法人目黒区国際交流協会
多文化キッズコーディネーター 北爪 淑乃 氏

この研修では、様々な分野、地域、立場で多
文化共生に関わる方々が集い、交流と共感を
繰り返し、繋がりを深め、新たな連携を生み
出します。「講義中心の研修だと思っていたが、
予想以上にインタラクティブで楽しい」という
声も多々ありました。多岐に渡るテーマを専
門の講師陣から学ぶだけでなく、参加者も発
信することでそれぞれの現状や課題を知り、自身の立場と活動の中
でどのように活かせるかを改めて振り返ることができます。私自身も参
加者の熱意から多くを学びこの繋がりに心から感謝しています。また
どこかでお会いできることを楽しみにしています！



府中市多文化共生センター DIVE 勤務、
kokohanaやさしい日本語でつながる八王子の会
代表 宮武 茜 氏

この研修では、第一線で活躍する講師陣から
直接、多文化共生に関する協働事例、込めら
れた思い、工夫、失敗談などを聞くことがで
きます。他地域、他分野で活躍する仲間とつ
ながり、様々な事例を知ることで、今までの
自分の活動を振り返ったり、抱えている課題
を整理して解決のヒントを見つけることがで
きます。

受講生がこんなに熱を帯びる研修は、なかなかありません。今後の活
躍も、必ず誰かが見守って応援してくれるはず。今後も仲間が増
えることを期待しています！



独立行政法人国際協力機構 国内事業部
外国人材受入支援室 松岡 純子 氏

この研修は、多文化共生社会の構築に欠かせ
ないコーディネーターとしての知識や役割に
ついて考え、官民・広域連携のアクションプ
ランを作成するなど、充実したプログラムとな
っています。

講義は国や都の政策の総論から教育、就労、
相談事業等の各論まで幅広く、各回、活発な
質疑応答が展開され、受講者の高い関心と熱意が感じられました。
この研修を通して形成されたゆるやかなネットワークが、受講者の皆
さんの今後の活動の中で活かされていくことを期待しています。私も
いただいたご縁を大切に、今後の取り組みに活かしていきます！





1日目

6月12日(木)

多文化共生のこれまでとこれから

多文化共生に係る行政の取り組みの歴史と今後の課題

■ 明治大学教授 山脇 啓造 氏

多文化共生の定義、多文化共生に係る地方自治体及び国の取組における歴史と現状、諸外国の取組及びインターカルチュラル・シティ等について講義し、国の体制整備(法律・組織)、教育における課題、「未来の東京」戦略ビジョン等について言及しました。

受講者の声



これまでの多文化共生に関する流れや今後の課題の知識が網羅的に得られた。これは自治体の国際交流協会職員として注力すべきことを考えるための指針になると思う。

外国人相談

① 東京都つながり創生財団の外国人相談事業

■ 公益財団法人東京都つながり創生財団 多文化共生課 課長代理 野村 雅美

外国人住民や自治体窓口を対象とした電話相談窓口である東京都多言語相談ナビ(TMCナビ)、ウクライナ避難民支援事業の内容について説明したほか、相談員の研修や事例共有会、相談支援システム-東京都外国人相談サポートサイト(T-NETs)、東京外国人支援ネットワークについて紹介しました。



② 外国人の法律相談

■ 法テラス本部 国際室長/弁護士 富田 さとこ 氏

法テラスの業務や法律相談の特徴・流れ、外国人の労働や婚姻等の法律問題と在留資格の関係について、相談事例をもとに説明し、専門分野は専門家に任せると意識を持ち、コーディネーターが適切な機関につなぐことの重要性について講義しました。



受講者の声



東京都つながり創生財団による多文化共生の取り組みや、国際室の役割、外国人向け法律相談の特徴、そして、多文化共生コーディネーターとしての留意点などを学ぶことで、自身が担当する窓口での相談業務にも大いに活かせると感じている。



様々な相談事例を聞くことで、現在、在日外国人が置かれている状況や問題を知ることができた。今後、同じような問題を抱えている人がいる可能性を常に頭において業務に取り組んでいけさと感じた。

コーディネーターについて考える パネルディスカッション

多文化共生コーディネーターの意義と役割

ファシリテーターが自身の取組やコーディネーターの役割等について紹介し、それぞれの立場におけるコーディネーターとしての在り方や連携について、パネルディスカッションを行いました。



■ 一般財団法人自治体国際化協会認定
多文化共生マネージャー 長倉 美紀 氏

大学と協働した区立小中学校における日本語支援の取組を紹介し、コーディネーターとして人や組織を連携・協働に導くヒントを伝えました。

■ 公益財団法人目黒区国際交流協会
多文化キッズコーディネーター 北爪 淑乃 氏

地域日本語教室との連携、運営における取組、多文化キッズコーディネーター(東京都助成事業)としての役割等を紹介し、コーディネーターとして、人と関わり、連携する上で、中立な立場で接すること、相互理解を深めることの大切さを伝えました。

■ 府中市多文化共生センター DIVE 勤務、
kokohana やさしい日本語でつながる八王子の会
代表 宮武 茜 氏

八王子市及び府中市でのコーディネーターとしての取組、連携事例「多文化防災研修」等を紹介し、多様なコミュニティとつながり、協働するために意識していることについて言及しました。

■ 独立行政法人国際協力機構 国内事業部 外国人材受入支援室
松岡 純子 氏

まちづくりにおける地域日本語教育コーディネーターの経験から、コーディネーターの視点、着眼点を伝え、地域との関係構築において意識していることを紹介しました。

受講者の声



コーディネーターとして、人と人をつなぐ橋渡しの役割を担いながら、中立的な立場で相手と向き合うことの重要性を学んだ。また、相互理解を深め、多様なコミュニティとつながること、そして相手が自らの力を発揮できるよう支援する意識の大切さについても理解を深めることができた。



2日目

6月19日(木)

日本語教育

東京都における地域日本語教育

■ アクラス日本語教育研究所 代表理事 嶋田 和子 氏

国や行政における地域日本語教育の状況や課題、東京都の体制づくりのあり方について言及し、東京都における「日本語教室」の事例共有、「日本語教育の参照枠」に触れながら、より良い地域日本語教育及び地域連携を実現するための大切なポイントを伝えました。グループワークでは、「外国にルーツをもつ人々と地域のつながりをはぐくむ」ことを大切に、日本語教室を実施するためには、どんな工夫が考えられるかについて考えました。



受講者の声



言語はあくまでも手段であり、言語の習得そのものが目的ではないことや、言語を用いていかに地域とつながり、自分らしく社会に参加するかが大切であること等、日本語教育の根幹に関わるお話を伺うことができました。

子どもの教育

外国につながる児童生徒の支援

■ 国際交流基金 日本語国際センター 所長、東京学芸大学 名誉教授 佐藤 郡衛 氏

外国につながる子どもとその教育について、国の調査統計及び政策動向、教育現場からみた現状と課題を伝え、視野を広げたキャリア支援や進路保障の必要性について講義しました。また、多文化共生コーディネーターへ期待することとして、必要な心構えや取組み、連携等について話しました。



受講者の声



佐藤先生の講義はわかりやすく、知りたい情報が網羅されていて、今後の活動に役立てたいと思いました。子どもの生活全体を支えることや子どもの将来を見据えた支援で、一人でも多くの子どもに意欲や希望を持ってもらえるよう活動していきたいと思いました。



情報提供

多言語・多文化に配慮した外国人住民への情報提供

■ 公益財団法人横浜市国際交流協会 多文化推進課長 中村 暁晶 氏

外国人住民にとって価値のある情報を提供をするために大事な視点や工夫について、横浜市国際交流協会の取組み事例の紹介をおしえて説明しました。



受講者の声



外国人への情報提供を考えるときに、やさしい日本語など表現手段のことをつい考えてしまいが、どのような情報に価値を感じるか、何の情報を提供すれば行動につながるかなど、もう一段階上の視点で考えるきっかけとなりよかった。

災害対応

東京都における災害時の外国人支援体制づくり

■ 東京消防庁 池袋都民防災教育センター（池袋防災館）館長 歌代 翼 氏

■ 東京都 生活文化局 都民生活部 地域活動推進課 課長代理 小畑 就平 氏

■ 公益財団法人東京都つながり創生財団 多文化共生課 課長代理 諏訪 淳美

前半では、東京都における災害時の外国人支援体制や役立つ防災ツール等の紹介、池袋防災館におけるやさ



しい日本語を活用した外国人対応、支援の取組みについて説明しました。後半では、避難所等、現場で起きうる事例をもとに、外国人を含む対応について考えるワークショップを実施しました。



受講者の声



（災害時の外国人対応について）多くの情報を得ることができた。また、ワークショップでは他の参加者と話し合うことで、いろいろな視点から問題を考えることができ、とても参考になった。



3日目

6月26日(木)

※フィールドワークの振り返り・報告は6月30日に実施

フィールドワーク／フィールドワークの振り返り・報告

5つのグループに分かれて関係機関や団体を訪問し、振り返りを実施後、全体で報告を行いました。

①大久保図書館及び大久保街歩き

前半は、大久保図書館における多文化共生の取組みについて伺い、後半の街歩きでは、多様な文化が融合する大久保地域を歩きながらまちの特徴や変遷を解説していただきました。



*大久保街歩き案内人:新大久保語学院 院長／ DEKIRU株式会社 代表 李 承琨 氏

受講者の声



大久保図書館では、多国籍の街における多文化共生の先進的な取り組みの数々について貴重なお話を伺うことができました。地道な努力の積み重ねにより、外国人住民からの信頼を得て、人と人のつながりの輪が広がっている様子里に大変感銘を受けました。



大久保のまちに外国人が来たことで、どのように変化していったのかを知ることができた。

②外国人在留支援センター (FRESC) ・ 東京外国人雇用サービスセンター・ 東京外国人材採用ナビセンター

ビザや雇用など外国人の在留に関わる8つの関係機関が集まる外国人在留支援センター (FRESC) と留学生を含めた外国人の就職、転職支援などを行う東京外国人雇用サービスセンター及び東京外国人材採用ナビセンターを訪問しました。



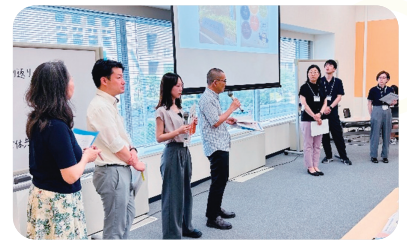
受講者の声



外国人の雇用について、各センターや部門がどのような役割を担っているのか理解を深めることができました。仕事の探し方や悩み事など困っている外国籍住人がいたら、今回の訪問場所を伝えます。

③東京出入国在留管理局 (品川庁舎)

出入国在留管理に係る事業・サービスをご紹介いただき、施設内を見学しました。



※写真は4日目「報告」の際の様子です。

受講者の声



この研修を受講しなかったら、訪れる機会のない入管に行くことができてよかった。人の管理に加え、支援も業務のひとつであることがわかり、大変な業務をこなしていただいていることに頭が下がった。難民の状況やFRESCについてもご説明いただき、今まで知らなかったことが少しだけ理解できた。

④エベレスト インターナショナルスクール ジャパン (荻窪校舎)

学校概要や理念、地域社会との関わりなどについてお話を伺い、施設内を見学しました。



※写真は4日目「報告」の際の様子です。

受講者の声



ネパール本国にルーツを持つ子供にとって本国と同一のカリキュラムと学べるなど、この学校に日本で通えるメリットが大きいことが理解できた。

⑤特定非営利活動法人 IWC国際市民の会

外国につながる子どもたちへの学習支援などについてお話を伺い、授業の様子を見学しました。



受講者の声



長らく活動されている実績とノウハウは大変参考になりました。多文化共生施策において、地域の活力を貴重な資源としてとらえることは非常に重要なことだと改めて感じています。



4日目

6月30日(月)

医療・保健

外国人住民の医療・保健をめぐる状況

国際医療福祉大学大学院
准教授 岡村 世里奈氏

多様化する外国人患者及び医療機関の現状と課題、医療機関の受診方法や入院手続き、医療文化・医療習慣の違い、国の外国人医療施策の概要と変遷、東京都における取組み等について講義しました。



受講者の声



日本の保険制度や医療機関への受診方法は、諸外国の制度と比べて大きく異なることを改めて知ることができた。このことから、単純に翻訳して情報発信するのではなく、そもそもの制度のあり方や必要性も含めて説明が必要であることを感じた。



福祉

① 外国人住民の福祉課題とコーディネート

東洋大学 福祉社会デザイン学部
教授 南野 奈津子氏

外国人住民をとりまく福祉領域における現状や課題、様々な社会的障壁が外国人住民の福祉課題を生み出すメカニズムや多文化ソーシャルワークの視点について講義し、社会資源をコーディネートするために留意すること、必要な連携や協働等、アセスメントの重要性について伝えました。



受講者の声



日本に住む外国人の福祉の実態と課題がわかった。「支援関係者に求められること」が具体的に提示されていた。また、「多文化ソーシャルワーク」の視点の重要性も理解できた。南野先生の「一緒に問題解決&本人の自己決定を大切に」は基本であると胸に刻んだ。

② 地域における包括的外国人支援

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 共生社会課
CSW担当チーフ 宮坂 誠氏

社会福祉協議会とはどのような組織であるか、豊島区における外国人区民の状況、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の取組み事例、特例貸付、外国人支援に関する課題、地域との連携・協働体制等について紹介し、今後の課題について言及しました。



受講者の声



地域における包括的外国人支援をしている事例を具体的にかつリアルに聞くことができ、自分の地域でもどのようにこれから展開していったらいいのか、想像をしながら講義を聞いていました。

労働

① 外国人の就労支援

ハローワーク新宿
新宿外国人雇用支援・指導センター
川崎 浩伸氏

ハローワーク新宿における各施設の特徴や違い、外国人雇用の現状、外国人求人者向け支援、外国人雇用の対策（事業主向け支援）について紹介しました。



受講者の声



ハローワーク新宿の取組、労働に関する常識、及び相談先について理解を深めた。

② 労働相談

東京労働局
外国人特別相談・支援室 吉清水 信也氏

労働契約、解雇と退職、賃金等に関する基本的な知識について、相談事例を交えて説明しました。



受講者の声



外国人支援に限らず、労働法について理解が得られたので、様々な相談支援場面で役に立ちそうです。



5日目

7月7日(月)

意識啓発

多文化共生の意識づくり

■ 漫画家・タレント 星野 ルネ 氏

カメルーンで生まれ、日本と両国で育った経験から考える多様性や人権が尊重されるインクルーシブな社会の実現について、漫画を用いながら講演しました。多文化共生の意識づ



くりには、実際に交流する機会を持ち、互いを尊重し、議論を重ねる必要があることを伝えました。

受講者の声



多文化共生の基本となるような大切なメッセージを頂けたと感じました。外国人と日本人をつなぐ架け橋の役割を果たせるようになりたいと思いました。

社会参画

外国人住民による社会参画

出身国や来日背景の異なる3名のパネリストが、自身の移住・定住の経験や日本での社会参画について、山脇啓造氏の進行でパネルディスカッションを行いました。

■ 盖 卓英 氏

中国で生まれ、日本の大学院への入学を機に来日。社会参画の一例として、自身の子どもが中国から日本の学校へ転入したのをきっかけに開始したPTA活動や町内会での活動について、保護者同士の協力や連携、苦勞したこと、良かったこと等の経験を話しました。



■ パルティマ・シルワル 氏

ネパールから大学進学を機に来日。現在、仕事と子育てを両立しながら取り組んでいる、地域の語学ボランティアとしての相談通訳支援、教育委員会の依頼による小中学校での日本語が話せない児童の授業の通訳やサポートの経験、生活の中で感じていること等について話しました。



■ 星野 ルネ 氏

「意識啓発」の講義に引き続き、カメルーン及び日本での生活や経験をもとに、ほか2名のパネリストとの比較や自身の考えについて話しました。



受講者の声



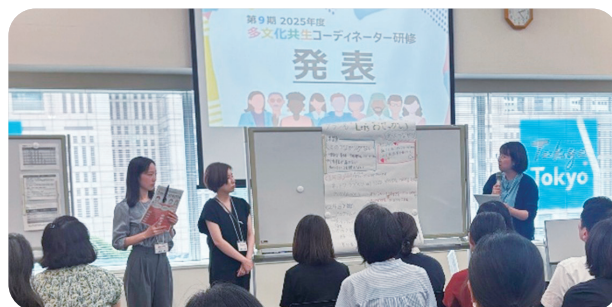
日本の地域社会に溶け込むために大変な苦勞と努力を重ねてこられたことや、困難をどのようにして乗り越えられたかについて、大変貴重なお話を伺うことができました。



言語も習慣も異なる環境の中で、自ら積極的に社会参画している姿は、本当に素晴らしいと思いました。マイノリティ側だけが努力して関わろうとするのではなく、マジョリティ側がもっと寄り添う姿勢を持つ必要があると思います。

演習ワーク／活動プランの発表・ポスターセッション

コーディネーターとしてどのように課題解決に取り組むのかを話し合い、グループで3年間のプランを検討してポスターにまとめ、発表しました。発表後のポスターセッションでは、活発な意見交換が行われました。



研修をととしての感想



講義のテーマが多様で、幅広く情報を得ることができました。フィールドワークで普段行く機会のない場所を見学できたことも良い経験になりました。また、グループで意見やアイデア出し合いながらテーマから実行プランまで考える演習はとても勉強になりました。



講義での学びに加えて、参加者のみなさんとお話して、いろいろなことを学び刺激を受けました。“多文化共生コーディネーター”の役割について、これまでより具体的なイメージが持てたように思います。今回の研修で得た情報や学びを今後の業務に活かしていきたいと思います。



座学としてインプットできた情報は大変参考になったので、今後いかにアウトプットしていくかが引き締まると思います。ただし、それ以上に貴重な体験だと感じたのは、多文化共生に携わる様々な立場の方と知り合うことができたことです。これからコーディネーターとしての役割を担うにあたり、所属自治体以外の関係者の方とも交流する機会は多分にあると思うので、今回つながった交流関係を大事にしていきたいと思います。



多文化共生に関わる基礎的な知識を得られただけでなく、コーディネーターとして外国人住民と向き合う際の心の持ちようや心得を学ぶことができました。壁にぶつかった時は、この研修でお会いした皆さんの顔を思い浮かべ、自分を鼓舞しながら前進していきたいです。

研修の様子



受講者からのメッセージ

江戸川区 SDGs推進部 ともに生きるまち推進課
多文化共生センター 齋藤 恵美 氏

もの凄く充実した5日間でした。こちらの研修では、多文化共生の基礎的な知識を体系的に学ぶことができます。しかも、それは最前線の現場でご苦労された講師陣からの熱いメッセージです！それを一緒に学び合える仲間との出会いもこの研修で得られたかけがえのない宝物となりました。多文化共生に係る課題を解決していくためには、様々な視点や、立場の違う他機関との連携が不可欠です。行政・教育機関・日本語指導・国際交流協会・社協・NPOなど多方面から集まった参加者が一体となって素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。そのネットワークは既に方々で活用させて頂き、この研修での出会いが日々の業務の支えになっていると毎日実感しています。

小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課
多文化共生担当 柳原 英明 氏

制度や課題について学ぶだけでなく、最前線で活動する方々の事例から多くの気づきを得られ、何より他の参加者とのつながりもできました。この研修のおかげで、多文化共生を1年早く前進させられると実感しました。行政職員は人事異動の関係で個人が身に着けたスキルや経験の継承が難しいこともありますが、だからこそ積極的に参加する価値があると感じました。多文化共生の担当年数は気にせず、明日からの実務に活かせる実りある学びを、この研修に参加して得てください！

一般財団法人港区国際交流協会 今井 高樹 氏

多文化共生分野の初心者として、講師の方々の熱量と深い知識に圧倒されました。日本語教育、生活相談、就労支援など包括的かつ実践的な内容だったので、すぐに業務に生かすことができたと感じています。グループワークを通じて自分の考えを深めることができたのも研修の良さだったと思います。参加者同士がすぐに打ち解け、研修期間中に二度の懇親会も行われました。ネットワークづくりには最高です。ぜひ参加をお勧めします。

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 共生社会課 所 満紀子 氏

大変充実したカリキュラムの研修でした。また、毎回座席が変わるため自然と研修参加者同士で意見共有をする事ができ、研修を通じて『つながる』ことへの配慮がされている点も印象深かったです。更に、多文化共生コーディネーターとは何かを学ぶだけでなく、担当業務であるCSW（コミュニティソーシャルワーカー）として、多文化共生に取組む上でのアクションプランを併せて作成することができました。本研修の学びを職場でも共有し、多文化共生の地域づくりに生かしていきたいです。

On your marks（市民団体） 砂原 みわ 氏

小学校で日本語講師と地域で子ども日本語教室の運営をしています。5日間の研修はエネルギーで充実した日々でした。多岐に渡る課題を学び、語り合い、受講者からは現場の生の声を聞くことができました。そして「離れていても同じ志を持つ仲間ががんばっている」と思えることが何よりも収穫でした。この研修で得たことを糧に、自分にできる多文化共生の形を具体的に考え、地域で実現できるよう活動に取り組んでいきたいと思っています。



公益財団法人
東京都つながり創生財団
Tokyo Metropolitan Foundation "TSUNAGARI"

〒163-0808 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル8階
Tel 03-6258-1236 Fax 03-6258-1228
Email coordinator@tokyo-tsunagari.or.jp
Website <https://www.tokyo-tsunagari.or.jp>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。